

調達改革ロードマップについて

2019年3月29日

東京電力パワーグリッド株式会社

1. はじめに	・ ・ ・	P3
2. 仕様統一化に取り組む品目について	・ ・ ・	P4
3. ロードマップ	・ ・ ・	P5
4. 仕様統一検討状況	・ ・ ・	P6
5. 調達の工夫における目標	・ ・ ・	P7
6. 調達の工夫一覧（2018年度実績値 施策実施状況）	・ ・ ・	P8

- 2018年12月に開催された再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会において、既存ネットワークコストの低減、再エネ接続費用の低減を目指すため、調達額が大きく、新規の電源アクセスの際に必要な「架空送電線（ACSR/AC）」、「ガス遮断器（66・77kV）」、「地中ケーブル（6kVCVT）」の3品目について、仕様統一化に取り組むべき旨の提言がございました。
- このたび、上記3品目を対象に、仕様統一化・調達の工夫に係るロードマップ（2018～2022年度）を作成いたしましたので、公表いたします。

2. 仕様統一化に取り組む品目について

仕様統一化に取り組む品目

再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会(第11回)(2018.12.26)資料4抜粋

- 既存ネットワークコストの低減と、再エネの接続費用の低減を目指すため、まずは、調達額が大きく、新規の電源アクセスの際にも使用される以下3品目について、仕様統一化に取り組むこととしてはどうか。

対象品目	イメージ図	選定理由	統一化の方向性
架空送電線 (ACSR/AC)		<ul style="list-style-type: none"> 再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 全国的な調達額が大きい。 <p>※主に超高電圧で使用される耐熱性の高いアルミ線(TACSR)も存在するが、電源アクセスの際に必要となるケースの多い、本製品について検討。</p>	<p>仕様数2 → 全国大で統一</p> <p>※アルミ送電線には通常の仕様(ACSR)と、耐食性の高いもの(ACSR/AC)が存在するが、価格差が小さいため、耐食性の高い仕様 nationwide で統一。</p>
ガス遮断器 (66・77kV)		<ul style="list-style-type: none"> 再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 各社の仕様が異なっており、統一化による効果大きい。 	<p>10社個別仕様 → 全国大で統一</p>
地中ケーブル (6kV CVT)		<ul style="list-style-type: none"> 再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 各社の仕様が異なっており、統一化による効果大きい。 	<p>10社個別仕様 → 全国大で統一</p>

3. ロードマップ

- 仕様統一検討を実施し、共同調達を含め最適な調達を行うことにより、スケールメリットを拡大し、価格低減を図ります。
- 2021年度以降は、今回の取組に対する分析を行い、ローリングすることで更なる改善を図ってまいります。

	2018	2019	2020	2021	2022
仕様統一 (技術方)	<p>【架空送電線】 ACSR系電線をACSR/ACに統一</p> <p>【ガス遮断器】 66kV・77kVのガス遮断器の各社個別仕様を統一</p> <p>【地中ケーブル】 6kVCVTケーブルの各社個別仕様を統一</p>				
調達の工夫 (資材方)		<p>【架空送電線】 【ガス遮断器】 【地中ケーブル】 既存施策※の高度化、新規取引先拡大およびまとめ発注拡大（共同調達）検討</p> <p>※8スライド参照</p>		<p>ローリングしながら効率化を図る</p> <p>PDCA → PDCA</p>	

4. 仕様統一検討状況

【架空送電線】

- ACSR系電線としては、一般的に使用してきたACSRと、より耐食性が高いACSR/ACがあるが、スケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に全国大でACSR/ACに統一。

【ガス遮断器】

- メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に66kV・77kVガス遮断器の各社仕様を統一。

【地中ケーブル】

- メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に6kVCVTケーブルの各社仕様を統一。

具体的な取組内容・施策

【架空送電線】

- ACSR系電線にはACSRとACSR/ACがあるが、それぞれのスペック等を比較するなどして、全国大でACSR/ACに統一することによる不具合がないかを検証。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についてもACSR/ACで対応していく。

【ガス遮断器】

- 各社の現状仕様を把握し、標準仕様を検討することでスケールメリットを拡大する。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。

【地中ケーブル】

- 各社の知見を反映した試験方法、材質等の各社個別仕様の取捨選択を実施し標準仕様を設定。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。

5. 調達の仕事における目標

- 設備仕様の標準化による品目別の市場変化を踏まえ、調達コスト削減に資する「新規取引先の拡大」や「まとめ発注（共同調達を含む）の拡大」などに取り組んでまいります。
- また、実践した発注施策については取引先ヒアリング等を通じてPDCAを回しながら、調達戦略の更なる高度化を検討いたします。
- なお、コスト削減に向けた調達改革の一施策として、メーカーと当社で協働しながら生産性を向上し、原価改善を実現する取組も行ってまいります。

分類	項目	説明（年度比較）	実績値 (2018年度)			目標値 (2022年度)		
			架空送電線	ガス遮断器	地中ケーブル	架空送電線	ガス遮断器	地中ケーブル
仕様統一 状況	統一化品 調達割合	仕様統一品の購入（個別仕様品の排除）によりコスト削減を目指す	99.8%	---※1	---※1	100%	100%	100%
競争拡大	競争発注比率	競争環境構築・維持よりコスト削減を目指す	100%	100%※2	100%※2	100%	100%	100%
	取引先拡大数 （取引先数）	競争環境の活性化を図る	---※1 (4社)	---※1 (6社)	---※1 (6社)	1社 (5社)	1社 (7社)	1社 (7社)
調達の 工夫	施策実施率 （施策実施数）	各社で実施している調達の工夫を展開し、コスト削減を図る	83% (5/6)	67%※2 (4/6)	50%※2 (3/6)	100% (6/6)	100% (6/6)	100% (6/6)

※1 --- 実績なし

※2 仕様統一化前の既存品における実績値

6. 調達工夫一覧（2018年度実績値 施策実施状況）

- 当社では、仕様統一化を実施する3品目に対して有効と考えられる以下6項目の調達施策につきまして、2022年度全適用に向けて取り組んでまいります。

発注施策 (買い方)	内容	施策実施状況		
		架空送電線	ガス遮断器	地中ケーブル
1. 新規取引先開拓	競争環境の活性化のため国内外から新規取引先を開拓	未実施	未実施	未実施
2. まとめ発注	契約時期を合わせて調達量を増やしスケールメリットを得る（共同調達を含む）	実施	実施	実施
3. 早期発注	取引先の生産計画平準化を目的として概略設計の状態ですら早期に発注	実施	実施	未実施
4. シェア配分競争	複数の案件をまとめて提示し、競争の結果により取引先にシェアを配分	実施	実施	実施
5. コスト低減提案の募集	技術提案に限定せず、調達方法など調達全般に関するコスト低減提案を募る	実施	実施	実施
6. 複数年契約	通常の契約期間を長期化することで優位な条件にて契約する施策	実施	未実施	未実施
施策実施率 (施策実施数)		83% (5/6)	67% (4/6)	50% (3/6)